

# 安全に関する改善事例

記入日: 2005年 10月 20日  
 (所属会社) (氏名) (連絡先電話番号)

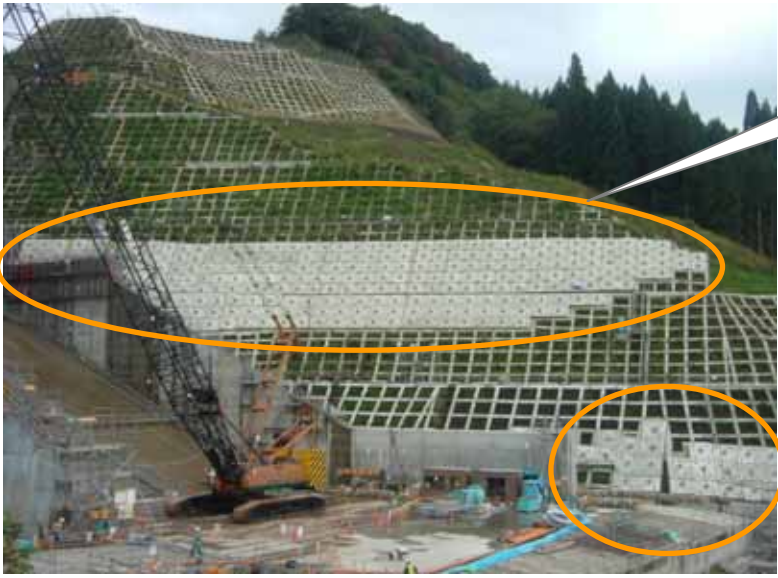
記入者:

ダム名	所在地県名	発注者	型式	ダム諸元		
				堤高(m)	堤頂長(m)	堤体積(千m <sup>3</sup> )
森吉山ダム	秋田県	東北地方整備局	R	89.9	786	5850
設計・施工区分	工種	想定される事故の種類	想定される事故の要因	危険作業の種類	設計変更の有無	
設計	法面工	墜落・飛来落下	人的・設備	上下・高所	①: 無	

<b>改善の概要:</b> 洪水吐左岸法面および堤体右岸上流法面のアンカー工事において、アンカー受圧板を「現場打ち」から「陸打ち」に変更することにより、現地での型枠、鉄筋、打設作業などの高所作業をなくし安全性が向上した。					特許の有無 有: ①
<b>メリット:</b> 「陸打ち」することにより、現地での型枠、鉄筋および打設作業がなく、高所作業を大幅に低減した。			<b>デメリット:</b> 受圧板設置のための揚重機設備が必要となり、若干、コストアップとなる。		

**改善後** (略図または写真)

洪水吐左岸法面



当初、設計ではアンカー受圧板は「現場打ち」となっていたが、安全性の向上と施工性、施工速度の面から「陸打ち」を提案した。  
 法面对策工の性質上、アンカーの緊張を早期に行い、所要の抑止力を早急に確保することからも、現場打ちでの受圧板のコンクリート強度発現までの期間を短縮する意味が生じた。  
 このことから、発注者の理解を得て、「陸打ち」への設計変更が認められた。

堤体右岸上流法面

